

肝 胆 膵 疾 患 の 手 術 に つ い て

“肝胆膵疾患領域の外科手術について”、と言われて皆さんは何を想像しますか？

比較的広い分野で、内容也多岐にわたり、しかも決してポピュラーではない疾患が多く、パツと思いつくのが難しい領域ではないでしょうか。

読んで字のごとく、肝臓・胆道（胆管）・膵臓に関する領域の疾患ですが、そのうち外科治療として扱っている疾患は、肝細胞がん・胆管がん・胆嚢がん・肝内胆管がん・転移性肝腫瘍・膵がん・十二指腸乳頭部がん・十二指腸がんなどの悪性腫瘍に対する手術治療があり、胆石・総胆管結石・肝内結石・胆嚢ポリープ・膵管内乳頭粘液性腫瘍・膵粘液性嚢胞腫瘍などの良性腫瘍なども手術の対象になることがあります。脾臓などの疾患群も肝胆膵領域の外科治療として含まれることが多いです。

竹田総合病院の外科では、これらの悪性疾患や良性疾患の外科治療に加えて抗がん剤の治療や、肝硬変・急性肝不全・急性膵炎など外科的治療を要する可能性のある内科的疾患にまで、肝胆膵領域の多岐にわたる疾患に対しての診療を行っています。

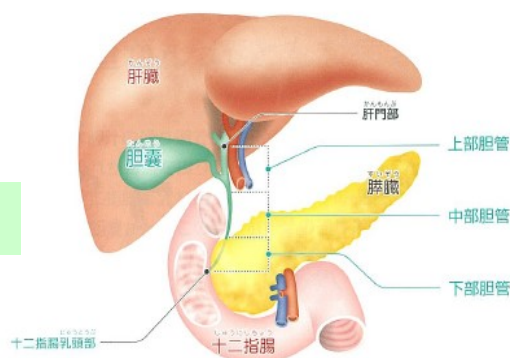
私たち外科医の仕事は手術が中心です。手術が好きな人はいないし、手術はどうしても嫌、という方がほとんどではないでしょうか。最近ではお腹を大きく開ける開腹手術に代わり、小さな穴で手術をする腹腔鏡手術が大半を占めるようになり、手術の負担も以前に比べれば減ってきています。ロボット手術も適応拡大してきています。

肝胆膵領域の手術では、まだまだ開腹手術が多いのですが、それでも腹腔鏡手術が占める割合が増えてきています。我々も、治療の質を上げるとともに、皆さんの負担が少しでも軽減できるよう、日々努力をしています。治療に関しても、手術以外の治療法で良い方法があれば、そちらをお勧めします。“外科に行ったら、何でもかんでもお腹切られちゃう！”なんてことは決してないのでご安心を。

手術にこだわらずに、肝胆膵疾患であれば、どうぞ相談しに来てください。一緒に、よりよい治療を目指して、病気を治していきましょう。

でも、外科治療が必要な場合は、手術しちゃいますよ！

出典：胆道がんの治療とケアガイド.金原出版.2013.



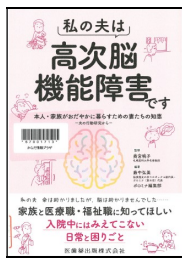
(外科科長 水谷 知央)



膵がん診療ガイドライン

膵癌診療ガイドライン委員会(金原出版)

医療者用の診療ガイドラインを作成した専門家が、患者さん向けに役立つ情報を解説したものです。



私の夫は高次脳機能障害です

藪中弘美著(医歯薬出版)

後遺症をもった家族と穏やかに暮らす為に必要なことを、実体験の中から伝えてくれる1冊です。



初めての感染症図鑑

岡田晴恵著(日本図書センター)

感染症を起こす病原体をキャラクターにして、自分語りで感染症を説明しています。イラストも可愛くとてもわかりやすい内容です。



還暦からの底力

出口治明著(講談社現代新書)

もう還暦だからと言った概念に捉われることなく行動し、自分らしく生きて行こうというエールの1冊です。



60分でわかる! 認知症対策

山田潔(ニュートプレス社)

認知症の情報を対応や経済面から解説しています。いつかなるかも知れないその前に学習してみませんか。



ボクはやっと認知症のことがわかった

長谷川和夫著(KADOKAWA)

長谷川式認知症スケールを作った方です。自ら認知症を患うことによって、わかったことや伝えたい事が書かれています。ぜひ見てください。

お勧めの一冊

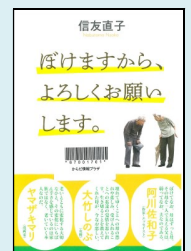
『ぼけますから、よろしくお願ひします。』というのは、著者のお母さんが年が明けた瞬間、「あけましておめでとうございます」という新年の挨拶の後にいった言葉です。ユーモア溢れるお母さんだと思いました。

この本は、たくさんのドキュメンタリー番組を制作してきた娘の視点から見たものです。映画化もされ大きな反響を呼びました。内容は85歳で認知症と診断された母と、93歳の父と二人暮らしの日常の様子が描かれています。この二人のやり取りの様子が自然体で飾らず微笑ましく思いました。そして、夫婦愛、親が子を思う愛、子が親を思う愛、そんな家族愛が伝わってくる心温まる本になっています。

この本を読んで、認知症は他人事ではないと改めて考えさせられました。

家族の絆を感じさせられた一冊です。ぜひ一度読んでみてください。

(看護研修管理室 菊地麻美)



【お知らせ】

現在、新型コロナ感染拡大防止のため今年3月から「あづまっぺ」を開催できない状況にあります。患者さん、ご家族の感染予防を最優先に考慮し、開催時期を検討して参ります。今後日程が決定致しましたら、「からだ情報プラザ」通信や当院のホームページにてお知らせ致します。

新型コロナと共に、これからインフルエンザの流行の時期でもあります。食事や睡眠など体調管理に気を付けて、感染しないように日常生活を送りましょう。